

報告 2 「全学共通教育の FD から大学間連携 FD へ」

小 田 隆 治 (山形大学地域教育文化学部教授／高等教育研究企画センター)

(小田) タイトルは「全学共通教育の FD から大学間連携 FD へ」となっていますが、話としては、大学間連携 FD から山形大学の FD へという話に持っていきたいと思っています。また、皆さんにパワーポイントの資料を配っていますが、実際のスライドは写真を入れています。流れは変わりませんが、ときどき違う写真が出てきますが、お気になさらないでください。

これから話に出てまいります FD ネットワーク “つばさ” を昨年 3 月 28 日に結成しました。これは東日本地域、関東から東北、北海道の私立大学、高専、短期大学に声をかけて、当初 34 校、すぐ 35 校になり、今はもう少し増えつつあります。そういう形で大学、短大、高専が連携して、FD ネットワーク “つばさ” を構築しました。

“つばさ” の目的はありきたりですが、大学間連携によって参加校の教育力の向上を図ろうというものです。

では、実際にどういう組織にしているかといいますと、FD 協議会、各大学から一人ずつの教員の協議員を出していただき、ここで事業を展開する話し合いの母体になっています。そして授業評価や FD 合宿セミナーなどの多様な FD 活動を行い、点検・評価を 1 年のサイクルで回しています。

このようなものを山形大学が声をかけて作ったのですが、実際には学生による授業評価、FD ワークショップ、合宿セミナー、シンポジウム、学生 FD 会議等、全国の大学で一般的にやられている FD の事業を大体やっています。では、それは “つばさ” 独自の事業かということ、そうではなくて、山形大学の FD 事業を共用したものです。その中には学生による授業評価、ワークショップ、FD 合宿セミナーがあります。“つばさ” 独自の事業としては、FD シンポジウムや学生 FD 会議などを開催しています。

具体的に見ていきますと、FD ネットワーク “つばさ” は、3 月 28 日に結成集会を行った日に、同日にホームページを開いていますので、活動内容については皆さまも HP を通してご覧になることができますと思います。次に、協議会を開き、1 年の活動を決めました。一番初めの協議会は山形大学で行い、地元の NHK や新聞社も来ました。参加校の札幌大学から山形大学に FD の調査に来られたり、またお互いの連絡をスムーズに行うためにメーリングリストを作りました。ホームページには、“つばさ” の活動を載せているのですが、それだけではなくて、参加校以外の大学が FD の講演会をやるからその記事を載せてほしいというときには掲載しています。そのような情報発信になっていまして、“つばさ” 参加校の中から他大学の FD の講演会に参加されたりもしています。

次に、学生による授業評価ですが、これは山形大学の学生による授業評価を平成 12 年以降、全学共通教育によってずっと続けてきました。そのアンケート用紙と集計のやり方は、我々は業者ではないので、結果は公表してください、それでいいなら山形大学は実費負担で協力しましょう、という形を取っています。そのように声をかけまして、山形大学を入れて 8 校、全体で 24 万 7 千枚を、山形大学が処理して公表しているという形でやっています。実費は 1 枚単価で 6.5 円です。

当初、山形大学がやっていたときは、アンケート用紙の 1 枚単価は 8 円ぐらいでした。それが県内の大学間連携である “樹氷” で 5 円台になり、現在は 3 円台になっています。では 6.5 円で儲けているのではないかとおっしゃるでしょうけれど、これは集計のアルバイト代を入れたものです。このような形でよければ、どうぞというかたちです。

アンケートの集計結果表に、我々の特徴があります。一つ一つの授業が横軸にそれぞれ表れており、縦軸は設問項目です。そして、これは強制ではないので、アンケートに協力してもらっていない教員のものが、横軸に白く抜いてあります。そういう形で山形大学の教養教育でいいますと、前期 300 科目、後期 300 科目がそれぞれこのような一覧表で見られるような形になっています。各教員には、あなたのところはどこですよ、という指示を含めた個票を付けています。このように一目瞭然の姿にして公表しています。

平成 13 年からは、名前を公表していい方については、名前を公表しています。現在は名前の公表が原則になって、名前を伏せたい人たちは伏せるという形になっています。

非常勤の方も、平成12年から、すべてやっています。学生の掲示板にも、教員に渡した日から2週間、学生掲示板に掲示しています。

次に、公開授業と検討会ですが、山形大学はこういう形でずっとやり続け、山形短期大学は平成16年の“樹氷”が起こったときから、こういう公開授業と検討会をずっとやり続けられています。山形短期大学の公開授業に我々や他大学が参加しています。また、札幌大学も今年第一回の公開授業と検討会をやり、私が参加しました。また、山形大学の公開授業には“つばさ”の参加校からの見学が何件もありました。

その中の一つの授業が、体育の授業でした。手裏剣や居合抜きの授業です。これは朝日新聞の記事になりましたが、一関高専の先生が参加されその感想が記事に掲載されています。一関高専の方は工学が専門なのですが、専門分野の違う先生にも参考になったようです。

また、山形大学が行っている合宿セミナーが、8月4～5日と5～6日に1泊2日で2回、今の季節はスキー場のど真ん中ですが、標高1300mぐらいのところにある蔵王山寮で行いました。トータルで104名、各々50名、50名ぐらい参加されました。40大学から参加され、北は北海道から南は沖縄まで、63名の学外者が参加されて、今までで一番学外者の参加が多かったのです。ついに学内より学外の方が多くなってしまいました。そして今年度はあまりにも多いので、中にはキャンセル待ちしたいという人もいましたが、お断りしました。“つばさ”からは、11校17名が参加されています。

これは成績評価、シラバスの書き方をグループワークするものです。これは今年新しく取り入れたプログラムです。平成15年から学外に開きました。16年から“樹氷”の先生が参加されるようになったのですが、最近の傾向は、いろいろな全国の大学教育センターの専門の教員も参加されるようになって、それを我々は先にグループ分けしていますので、専門家も入れていますので、そのノウハウが共有化されるシステムになっています。世界の先端的な教育情報が、何気なく普通の教員と一緒に共有化されていくような作業になって、こちらとしては驚くようなスタイルになってきて、効果を上げています。

次に講演会型のワークショップとして、平成11年以来、山形大学が開催しているのですが、8月7日に10時から16時までやっていますが、学外から56名が参加しているという感じです。今年度は立命館大学の沖裕貴先生をお招きしました。午後から分科会で、ICTや大学間連携の分科会を行いました。

また、FDのシンポジウム、学生FD会議は“つばさ”独自のものですが、11月29日に岡山大学の橋本勝先生をお招きして講演をしていただき、その後に学生のFD会議をやりました。参加校39校、“つばさ”から24校、総数88名でして、学生は32名、“つばさ”から30名で、あとの2名は岡山大学の学生さんです。こういう形でやり、これが学生のFD会議の模様ですが、グループ活動をして、大学のいいところと、どういうところを改善してほしいかを、いろいろな大学を混ぜたグループごとで話し合わせ、そして発表もなされたわけです。その後に行われたものが、1年間のFDの“つばさ”の活動をまとめた合同FD会議と学外評価委員会で、報告書の作成を今行っているところです。

こうして、いろいろな活動を雑駁に述べてきましたが、山形大学の“つばさ”はいきなり起こったわけではなくて、山形大学には、大学間連携の基盤となるものが、2004年に設立した山形県の国公私立の6大学・短大からなる地域ネットワークFD“樹氷”の経験がありました。この経験、当時FDに特化した大学間連携は、世の中でそうなかったと思います。この“樹氷”そのものが、“つばさ”のモデルになっていきました。ですから、基本は“樹氷”のスタイルをかなり踏襲しています。我々は、はっきり言うと別に苦闘しておらず、かなり手を抜いているという形です。

では、“樹氷”とはどういうものかといいますと、絵が変わっただけでももとの“つばさ”と同じです。FD協議会“樹氷”があります。協議員として各短大・大学から一人ずつ出ていきました。学生による授業評価をやり、公開授業をやり、学生モニター制度が学生FD会議に姿を変えているという形です。

そうしたとき、この経験が我々には生きてきました。最近、大学間連携はいろいろなものがあるけれども、例えば小さな短大ですと、教員数が十数名、我々の1学部ではなくて、1学科にも満たないような教員数しかない短大があります。それに委員1人を出してもらいにも、かなりの負担だということがよく分かりました。FDから離れますと、コンソーシアムでいろいろな公開講座をやられて、持ち番制に大学を回られて、これはかなりの負担だということが分かって、それを一体どうしたらいいのかを、少なくとも我々は分かっておかなくてはいけないのだらうと思います。中核校になるところが分かって活動をやらないと、かなりぎくしゃくするところが出てくるのだらうと思っています。

では、今の“樹氷”はどういう形で持っていたのかというと、これも流れがあるのです。山形大学の全学共通教育である教養教育のFD活動を、単に他大学に拡大したものに過ぎません。山形大学は6学部あります。山形市の小白川キャンパスに3学部、そして5～6 km離れたところの山形市内に医学部があり、山形市内に合計4学部あります。山形から50 km離れた米沢市に工学部があり、山形から90 km離れた鶴岡市に農学部があります。このような典型的な、統一性のないたこ足大学なのですが、そのような形でありながら、学生は1年間、山形市内に住んで全学共通教育の教養教育を受けることになっています。この教養教育のFDを、我々は担当してきました。この教養教育のFDの輪を広げているのです。

我々の特徴的な言葉はどういうものがあるかということ、よそと恐らく違う言葉を使っているのだらうというのが今ごろ分かってきたのは、山形大学のFDの他大学への「技術移転」というものです。技術移転と言うのは、奇異に感じられると思いますが、まさに“樹氷”の設立は、私と学長か、または私と副学長とで、3日間ではその大学の学長さんに会いに行きました。そして、この“樹氷”に入りませんかとやりました。その当時は、平成16年の年度当初ですが、そのころには、まだFDという言葉を知らない大学・短大もあるような状況でした。そういう状況の中から、FDを話し合っていくというよりも、受け入れられるところは、我々、山形大学が培ってきたものを提供して、そういう形の技術移転を現代GPの支援の下で行ってきたのです。これは山形の6校でやったのですが、かなり効率的だったと今でも思っています。そして山形大学が中心の統合型ネットワークから、3年もたちますと、短大などが自覚的になってきて、自分のサイズに合わせたFDを発見してくるのです。そういう形の分散型のネットワークへ進んでいきました。こういうものを我々の経験にしていっていったという形です。

では、山形大学のFDは、どういうものを行っているかということ、先ほどお話ししたものをやってきているのです。では、いつごろからやってきたかということ、1999年にFDワークショップ、2000年の平成12年に学生による授業評価と公開授業と検討会、2001年にFD合宿セミナー、学生主体型授業の研究をやってきました。学生による授業評価のスタイル、公表のスタイルは、このころからほとんど変わっていません。公表の項目などは、マイナーチェンジはしていますが、基本的には変えていません。

では、なぜ我々は変えなかったかということ、一番初めに、やはり5年、10年の風雪に耐えるようなものを作ろうとしたのです。そうでないと、教授会でアンケート項目一つ検討した時に1時間議論したと仮定すると100人の教授会ですと合計で100時間かかってしまう。その時間と労力たるや、かなりのものです。それを10年間、毎年1時間ずつやっただけの労力はすごいだろうと。それを我々はやはりその時代時代にあって、よく考えてものを設計していきたいと思っていました。それを学生による授業評価や公開授業と検討会の立ち上げの際に徹底的に行ったということです。

あと2004年に地域内ネットワークの“樹氷”を作り、2006年「エリアキャンパスもがみ」、これは初年次教育と地域貢献も含めましてやりました。2007年に個別支援型FDを開始し、ベストティーチャー賞とベストティーチャー新人賞の創設もやりました。どのようにして選ぶかは割愛させていただきます。学生による授業評価だけでは決してありません。そして“つばさ”を2008年に作り、「学生主体型授業開発共有化FDプロジェクト」を始めました。

このように、山形大学がやったものを段階的に県内に広げ、そして県外に広げていきました。また、よそに広げていく前に、初めは山形大学の中だけで閉じて取り組んだのかということ、そうではありません。平成12年に公開授業と検討会をやりましたが、それはいきなり、まだ山形大学がやったこともないのに、県内の大学に全部声をかけました。ポスターに、「高等教育に興味のある方は参加してください」という形で声をかけ、第一回目の公開授業と検討会に参加されたのです。

我々のFDの特徴は、公開性と共有化にあります。まさに先ほどのOPEN COURSEWAREにしても何にしても、オープン・公開性を我々は徹底してきたのだらうと思います。そしてそれをお互いに共有化していこうという基本的なFDのムーブメントでした。それは国立大学法人というものが校風を作り、そしてそれをベースにいろいろな教育改革が進められるベースを作ろうとする活動でもあったわけです。

まさに公開制と共有化は、私が平成12年に初めて行った公開授業、後ろに40人ぐらい、山形大学だけではなくて、県内外の大学の教職員も参加されました。検討会もこちらをやって、山形大学だけではなくて、県内の大学が我々の検討会のスタイルを見ているという形です。こちらは北大の先生方と、いま目の前にいらっしゃる京大の田中毎実先

生と、東海大の先生方です。

これを支える学内のFDと学外の“つばさ”を支えるところはどこかという、高等教育研究企画センターという山形大学のセンターです。こういう全学共通教育のFDをやり、“つばさ”をやり、エリアキャンパスをやり、学生主体型授業の教育GPをやり、立命館大学との学生交流事業をやっています。

では、実態は何かというと、専任教員1名だけの体制であって、私は専任ではなく兼任です。また専任事務職員は一人だけ、今、主任がいます。そして課長が補助してくれています。そして実際にこういう展開をやってくれているのは、非常勤の事務職員で、GPなどの資金で採用している形です。ですからここの骨格がなくなり、人が大きく変わると、これは我々の屋台骨が狂ってくるという形になります。

こうして我々山形大学を中心に今まで話をしてきましたが、では“つばさ”の参加校はこの“つばさ”に対して、どういう意味を持っているのかといいますと、“つばさ”を私は今年で30数校のうち、20校ぐらいにFDの講演会に招かれて話をし、講演をして、また終わってから、学長やFDの担当者と話をしてきました。かなり状況が分かってきました。そうしますとこの“つばさ”を効果的に活用しようとする確かな動きがあります。

何かといいますと、FD情報の獲得。FDの情報などは、インターネットや、こういうフォーラムへ来れば分かるだろうと思うのに、その取っかかりが分からない方もたくさんいらっしゃいます。中には、東日本ではなくて、すごく遠くの離れた、ここよりもっと西の方のある高専から、FDの講師を紹介してくれとうちに依頼がありました。それはうちの講師ではなくて、旅費が払えないから、もっと西の方で誰か知り合いがないかと言うのです。そういう情報すらない。恐らく、近くの大学に聞けばよいのですが、そうではないところもあるのだということです。

そして、FDというものをよく知らないのと、とにかくこれによって着手しようということです。

「飛躍」というのは、FDをまがりなりにもやってきたけれども、もうどんよりして停滞感がある。それを教授会の反対を一気に押し切ろうというところで、この“つばさ”を使おうと。

FDの効率化とあるのは、ある短大に行きますと、学長や理事長が、まさに教員の評価と絡めて学生の授業評価をやっていますので、学長さん自身が8000枚のアンケート用紙を処理しているのです。これは大変だということで、優秀な事務職員にやったら、事務職員もそれはめちゃくちゃ大変だということで、何とか山形大学の“つばさ”にのせてほしいという形で、FDを効率的にやっというと言われていたところもあります。

また、学内FDの組み込み込みとして、大変ではないけれども、授業評価をやったことはないのだけれど、まさに山形大学のFDをやって分担作業にしようと。自分のところですっぱりと、この“つばさ”に任せるところに持っていこうというところもあります。

次に、マンネリ化からの脱出。これは“つばさ”を作ったときに、ある大きな私立大学が入られたことがあります。その大学はFDを、山形大学より実績があるというか、十分やられている。しかし、マンネリ化になってきている。だから、そこは大学間連携によって打破したいというところがありました。

また、オリジナルなFDの構築。自分のサイズに合うようなオリジナルなものを作っていきたい。そのためには、やはり基盤となる情報が必要だというところがあります。

そして、FDの発信を何とかやっていきたいという形のものがあります。

以上、雑駁な話でしたが、現状という形でお話しさせていただきました。どうもありがとうございました。

(及川) 小田先生、ありがとうございました。小田先生には、FDネットワーク“つばさ”の事業についてご発表いただき、その前身である“樹氷”や山形大学のFDの特徴、“つばさ”を現在どのように活用されているかについてお話しいただきました。

続いて、京都大学の松下先生にご発表いただきます。松下先生には、「学内・大学間でのFDネットワーク構築」というタイトルで、京都大学のセンターの試みについてお話しいただきます。よろしくお願いたします。

京都大学
 第15回 大学教育研究フォーラム

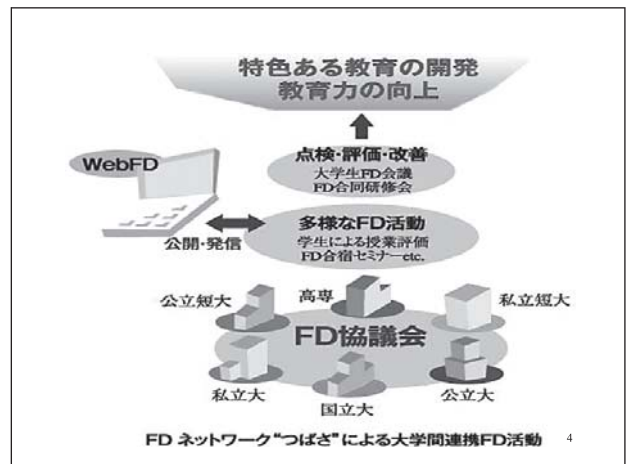
**全学共通教育のFDから
 大学間連携FDへ**

 2009年3月20日
 山形大学高等教育研究企画センター
 小田隆治



“つばさ”の目的

連携する大学・短大・高専のファカルティ・ディベロップメント(FD)の協同により、参加校の教育力の向上を図る。



「FDネットワーク“つばさ”」の事業

○	学生による授業評価
○	FDワークショップ
○	FD合宿セミナー
●	FDシンポジウム
●	学生FD会議
●	合同FD研修会
●	ホームページ
●	報告書

○山形大学のFD事業を共用、●“つばさ”独自の事業⁵

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(1)

- 3月28日 ホームページの開設
- 4月22日 第1回“つばさ”協議会開催 (於:山形大学)
- 4月28日 “つばさ”参加校(札幌大学)が山形大学にFDの調査
- 4月末 メーリングリストの開設

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(2) 学生による授業評価

- 参加校 8校
- 24万7000枚
- @6.5円

教養教育 授業改善アンケート集計結果(後期)

区分	領域	授業科目	授業回数		出席回数		出席率		満足度		満足率		満足率		満足率		満足率		満足率			
			回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合		
一般教育科目	社会科学	社会科学概論	10	100%	10	100%	10	100%	4.5	4.5	45	45%	45	45%	45	45%	45	45%	45	45%	45	45%

教養教育 授業改善アンケート集計結果(後期)

区分	領域	授業科目	授業科目名	代表教員	履修登録者数	
					人数	(a)
社会科学	文化・行動	カントの哲学(橋)	哲学	古川 泰明	21	21
		空想の思想史(哲学)	哲学	小原 正久	126	126
		社会倫理の発展(哲学)	哲学	津野 利雄	38	38
		心理学入門(心理学)	心理学	津野 利雄	181	181
		歴史の歴史(歴史学)	歴史学	津野 利雄	24	24
		分科概論(文学)	文学	津野 利雄	41	41
		文学概論(文学)	文学	津野 利雄	41	41
		文学概論(文学)	文学	津野 利雄	41	41
		文学概論(文学)	文学	津野 利雄	41	41
		文学概論(文学)	文学	津野 利雄	41	41

2001年(平成13年)9月29日 土曜日 山形 白 函 函 函

学生の教員評価を公表
 熱意や教授法採点
 生き残りへ質向上目指す

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(3) 公開授業と検討会

- 6月4日 山形大学の「公開授業と検討会」に“つばさ”の参加校から参加
- 6月11日 山形大学の「公開授業と検討会」に“つばさ”の参加校から参加
- 7月4日 山形短期大学の「公開授業と検討会」に“つばさ”の参加校から参加
- 7月10日 山形大学の「公開授業と検討会」に“つばさ”の参加校から参加
- 7月14日 山形大学の「公開授業と検討会」に“つばさ”の参加校から参加
- 10月8日 札幌大学の第一回目「公開授業と検討会」の実施

授業の質連携で高めよう
 「FD」義務化で各地に協議会

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(4)

FD合宿セミナー (山形大学主催)

- 8月4～6日 (一泊二日2回実施、山形大学蔵王山寮にて)
- 104名参加
- 40大学等参加 (北は北海道から南は沖縄まで)
- 63名の学外者が参加
- “つばさ”から11校、17名が参加

(札幌大1名、仙台大4名、石巻専修大1名、東北文化学園大1名、山形県立保健医療大2名、筑波技術大1名、茨城県立医療大1名、国際武道大1名、羽陽学園短大2名、一関高専1名、鶴岡高専2名)

13

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(5)

FDワークショップ (山形大学主催)

- 8月7日 (山形大学にて、講演会と分科会、10時から16時まで)
- 108名参加
- 41大学等参加
- 56名の学外者が参加

14

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(6)

FDシンポジウム

学生FD会議

- 11月29日(土)
- 山形市
- 講演:岡山大学 橋本勝教授
- 各大学から教職員以外に1名以上の学生の参加を募る

- 参加校: 39校 (“つばさ” 24校)
- 参加者: 総数88名 (“つばさ” 65名)
学生32名 (“つばさ” 30名)

15

「FDネットワーク“つばさ”」の事業(8)

- 2月14日 合同FD研修会
- 2月14日 学外評価委員会
- 3月末日 報告書の作成

16

山形大学は、2008年に設立した「FDネットワーク“つばさ”」の前に、2004年に設立した山形県の国公立の6大学・短大からなる「地域ネットワークFD“樹氷”」(「現代GP」に採択)の経験があった。

“樹氷”は“つばさ”のモデルとなった。

17



18

○“樹氷”は山形大学の全学共通教育である教養教育のFD活動を拡大したものにすぎない。

○山形大学のFDの他大学への技術移転。

○統合型ネットワークから分散型FDネットワークへ

19

山形大学のFD事業の開設年度

- 1999年
・FDワークショップ
- 2000年
・学生による授業評価
・公開授業と検討会
- 2001年
・FD合宿セミナー
・学生主体型授業の研究
- 2004年
・地域ネットワークFD“樹氷”(現代GP)
- 2006年
・エリアキャンパスもがみ(現代GP)
- 2007年度
・個別支援型FDの開始(FD・授業支援クリニック部門の新設)
・ベストティーチャー賞とベストティーチャー新人賞の創設
- 2008年
・FDネットワーク“つばさ”
・学生主体型授業開発共有化FDプロジェクト(教育GP)

20

山形大学のFDの特徴

■公開性

■共有化

21

山形大学のFDの体制：高等教育研究企画センター

- 主な仕事：①全学共通教育のFD事業
②“つばさ”のFD事業
(平成20年度外部資金)
③エリアキャンパスもがみ
(平成18年度「現代GP」)
④学生主体型授業FDプロジェクト
(平成20年度「教育GP」)
⑤立命館大学との学生交流事業

専任教員1名
専任事務職員1名+課長
非常勤事務職員6名(GP等の外部資金による)

22

“つばさ”の参加校は、“つばさ”を効果的に活用しようとする確かな動きがある。

- FD情報の獲得
- FDの着手
- 飛躍
- FDの効率化
- 学内FDへの組み込み
- マンネリ化からの脱出
- オリジナルなFDの構築
- FDの発信

23